

最先端共同 HPC 基盤施設発足記念シンポジウム

開催報告

東京大学情報基盤センター

2013 年 3 月、筑波大学と東京大学は、計算科学・工学及びその推進のための計算機科学・工学の発展に資するため、最先端共同 HPC 基盤施設の設置に合意し、協定を締結した。最先端共同 HPC 基盤施設は、東京大学柏キャンパスの東京大学情報基盤センター内に、双方のスーパーコンピュータシステムを設置して、最先端の大規模高性能計算基盤を構築・運営するための組織である。この施設を連携・協力して運営することにより、最先端の計算科学を推進し、我が国の学術及び科学技術の振興に寄与していくことを目指す。

本施設発足を記念し、「最先端共同 HPC 基盤施設発足記念シンポジウム」を 7 月 24 日(水)、柏キャンパス図書館メディアホールで開催した。85 名の参加者を迎え、本施設および本施設に設置するスーパーコンピュータの研究開発構想、それぞれの大学の計算科学・計算機科学の取り組みが紹介された。

開催に先立ち、林孝浩 文部科学省計算科学技術推進室長、宇川彰 HPCI コンソーシアム理事長（筑波大学教授）、松本洋一郎 東京大学理事・副学長、三明康郎 筑波大学理事・副学長よりご祝辞ならびに挨拶があった。

続いて、「施設の目的・概要の説明」を佐藤三久 施設長（筑波大学計算科学研究センター）より、「PostT2K 構想」を石川裕 副施設長（東京大学情報基盤センター）より発表があった。

休憩をはさみ、「筑波大学の取り組み」について朴泰祐（筑波大学計算科学研究センター）より、「筑波大学のアプリの計画・期待」について梅村雅之（筑波大学計算科学研究センター）より、最後に「東京大学の取り組み」について中島研吾（東京大学情報基盤センター）より発表が行われた。



シンポジウムの様子